報　告　*Report*

ベトナム中部地域の伝統木造建築の建築装飾

―登り梁ケオ・クーの木鼻絵様の分類―

原稿受付　2021 年 7 月 30 日
ものつくり大学紀要　第 11 号　(2021)　87～92

林英昭[*1]

*1 ものつくり大学　技能工芸学部　建設学科

キーワード：伝統木造・ベトナム・建築装飾・木鼻絵様

1. 背景

ベトナム中部の古都フエはベトナム最期の王朝である阮朝の首都であった．1975 年まで続いた戦禍の最中に主を失った王宮の建造物群は荒廃を極めていたが，筆者は 2003 年より早稲田大学建築史研究室の一員として，その復原と保全活動の実施に従事してきた．一連の保全活動と並行して進めてきた遺跡群の調査研究の中で，ベトナム中部地域の木造建造物はベトナム国内のみならず，世界的に見ても独創的な架構形式を持つことが明らかとなった．その建築形式の拡がりと源流を探る目的から，現在は調査対象を宮殿，民家，祭祀施設へと拡大し，実測調査を主とした研究活動を進めている．

そうした研究活動の一環として，筆者は 2012 年よりフエ科学大学建築学科と共同でフエの伝統木造建築を中心に建築調査を進めている．これまでの協働調査により，フエの伝統木造住宅 70 棟の悉皆的現況調査，トゥアティエン・フエ省の全域のディン 140 件についての悉皆的現況調査，個別の伝統木造建築の実測調査も既に計 40 件を超え，2018 年にはそれらの実測調査成果をまとめた図面集を現地語で出版している．

本報告の基盤となる調査活動は，筆者と現地協力者の協働による一連の調査研究活動の一部に，双方大学の学生らを参加させることで，海外における学術的な実測調査活動の経験と，学生相互の国際文化交流を同時に実現しようという試みで，これまでに 2016 年度より 2019 年度まで年一回ずつ計 4 度実施している．2020 年度は日本からベトナムへの渡航が困難となり，実施が叶わなかったが，状況が落ち着けば再開し引き続き活動を継続する予定である．

本調査活動はベトナム・フエの伝統木造建築に関する実測調査を，ものつくり大学建設

写真1_フエのディンの例
（ディン・ズオン・ノー）

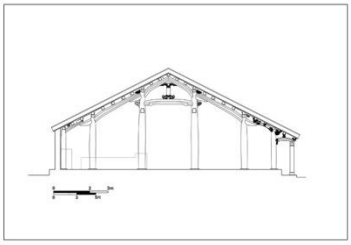


図1_フエのディンの断面図の例
（ディン・トゥー・レー）

写真2_実測調査風景
（2019年8月調査）

学科の学生とベトナム・フエ科学大学建築学科の学生と協働で行うことで，海外での学術的な建築調査活動の実体験と学生相互の国際文化交流を実現することを目的としている．木造文化遺産に関する学術的な実測調査を，我が国の建築史分野の専門家らが行う水準で発展途上国ベトナムにおいて現地学生らと協働で実行するものである．調査での協働作業を前提に日越双方の学生相互の国際文化交流が含まれる点で，参加学生らにとっては有意義な体験になればと期待している．

本調査活動の継続により，参加学生についての教育的観点からは（1）二国間学生相互の国際文化交流の実現，（2）途上国の文化財に関する理解の促進，（3）伝統木造建築の実測調査の実体験等の成果が期待できると同時に，学術的観点からは（1）ベトナム中部地域の貴重な文化遺産の図面記録，（2）同設計寸法体系の解明，（3）日本の建築調査の方法論の技術移転の三点に寄与することが期待される．文化を通じて諸国民間の相互理解を深めることは，世界の平和と安定に資する取り組みであり，国家間の関係が混迷を極める現代世界での活躍を強いられる若者達が，そうした相互交流の機会を持つことは，彼ら自身のみならず社会全体にとって重要不可欠な活動と考えている．

2. 目的と方法

本報告では以上述べてきた調査活動の成果の一部として，ベトナム中部地域の伝統木造建築の建築装飾について報告する．これまでに収集してきたベトナム・フエに所在する伝統木造建築の建築調査資料の中から，「ケオ・クー」と呼ばれる登り梁の木鼻に施される神獣の頭部を主題とした彫刻絵様を取り上げ，その特徴を整理するものである．具体的にはベトナム中部地域に所在する伝統木造建築ディン 14 棟と伝統家屋 16 棟を対象として，登り梁ケオ・クーの木鼻絵様についてその特徴を整理した．

関連する研究として，白井裕泰（2016）がある．本報告はこれを念頭に，これまで扱われてこなかったディンと伝統家屋の登り梁ケオ・クー木鼻の彫刻絵様についてその特徴を整理した．本報告では現地で写真撮影をしてきた画像と実測調査資料に基づいて，木鼻の彫刻絵様を線画に起こし，絵様各部諸要素の特徴について比較分析を行った．

3. 登り梁ケオ・クーの木鼻絵様の例

絵様のモチーフは現地で「クー」と呼ばれる日本の蛟と同種と思われる神獣の頭部で，それを柱頭に輪薙ぎ込まれた登り梁の軒先側へ突出させた木鼻の柱側接合を除く五面（両側

写真3_ディンのケオ・クーの例
（DN08_Đình Thủ Lễ）

写真4_伝統家屋のケオ・クー木鼻例
（W08_Lê Trọng Phú）

図2_線画に起こした木鼻絵様の例
（W08_Lê Trọng Phú）

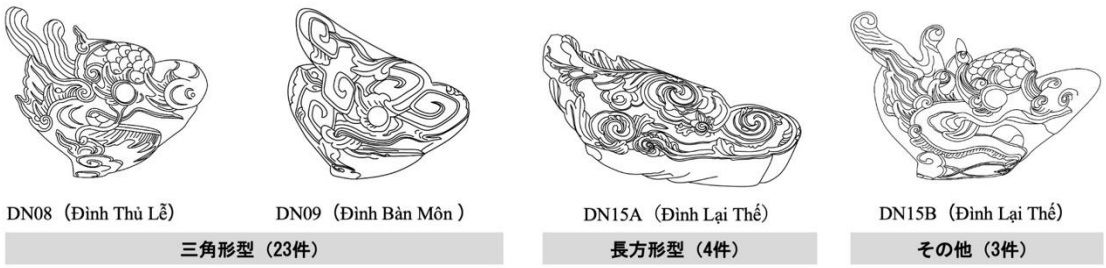


図3_全体の形状

面・上下面・正面）を使って形づくる．木鼻全体の勾配は通例，水平よりは下向き，屋根勾配よりは緩い勾配をもつが，そこへ彫られる顔の向きは水平方向を向くように仕立てられる例が多い．

絵様の全体像を図 2（W08_Lê Trọng Phú 邸）を例に説明すると，木鼻側面のほぼ中央に正円の眼球が置かれ，その眼球の周りには左上方へ流れる葉紋のような目頭，眼球の上には上方へ膨らんだ眉上の突起が左手に流れ，その先に下り巻きの角（つの），眉と角の間にもう一つ上り巻きの渦紋を置く．眼球の左下には上り巻きの渦紋と角へと平行に左上へ流れる鰓．眼球の真下には木鼻先端から切り込んだ大きな口裂，その端の口角端に牙か舌のような葉紋が口元から飛び出し，左手の渦紋を舐めるように流れる．顎の下端には両渦文が彫られている．

4. 絵様各部諸要素の比較分析

分析対象の計 30 件の木鼻の絵様各部要素について比較した．全体の形状は主に 3 つの形状に分けられる（図 3）．（1）三角形型：輪郭が三角形を成す例で 23 件，（2）長方形型：輪郭が長方形を成す横長の例で 4 件，（3）その他：以上に属さない特殊なかたちをした例で 3 件であった．

絵様の中心に置かれる眼球の形は，正円とするものが主流で 23 件あった．眼球の周りにはいずれの例も葉紋が施され，例外なく葉紋は裂片が上方の角に向かって流れる．その葉紋の裂片の数は 3 裂とする例が 1 件，4 裂とする例が 8 件，5 裂とする例が 10 件，6 裂とする例が 8 件，7 裂とする例が 2 件，8 裂とする例が 1 件であった．裂片の中で最も大きい裂片が上方の角に向かっている例が 13 件．最も大きい裂片の上側より下側の方が裂片数が多い例が 19 件であった（図 4）．

木鼻先端に施される鼻はいずれも渦模様になっており，上り巻きが 23 件，下り巻き 7 件

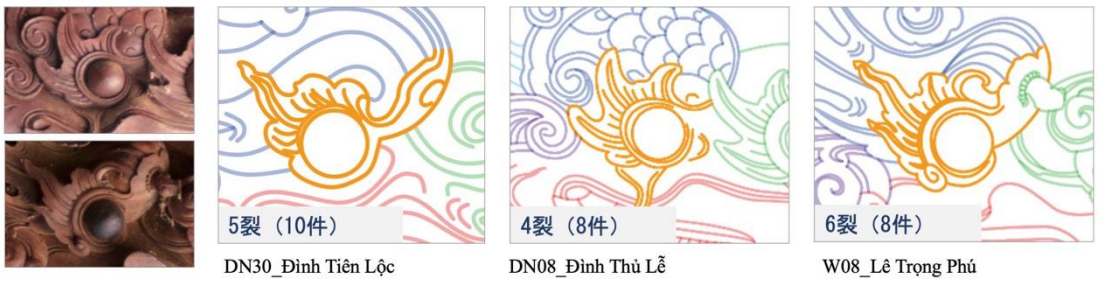


図4_眼球周辺の葉紋と裂片

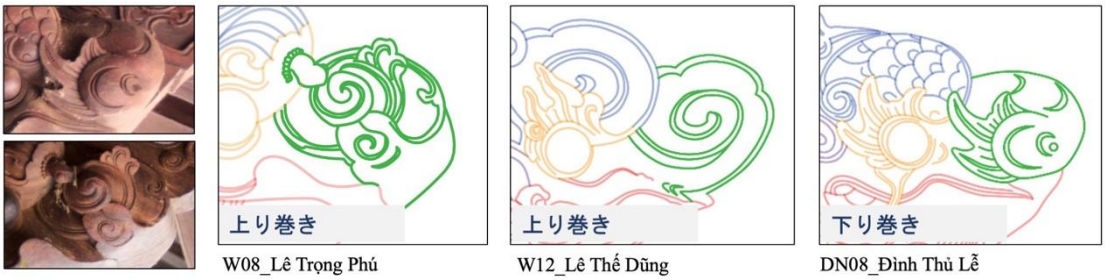


図5_鼻渦の巻きの方向

であり，上り巻きが過半である．上り巻きの例は上顎の延長が伸びてそのまま鼻の渦となり，下り巻きの例は眉先を起点に下り渦を描き，上顎とは別の曲線となる（図 5）．

上顎の曲線は目元と鼻先の間にできる空間へひとつ山を作って埋める例が主流で 27 件．口角端で下へ折れ，牙または舌のような紋様を施す例が 27 例．この牙または舌の裂片を数えると，裂片 1 つの例が 7 件，2 つの例が 7 件，3 つの例が 13 件であった．

5. 絵様構成の寸法分析

眼球・鼻渦・角・鰓渦の四点を結んで多角形を作り，その配置構成を検討した（図 6）．生成される多角形は主に 3 つの形状に分けられる．①二等辺三角形型（全 5 件）：鰓渦を起点に角へ伸びる一辺と鼻へ伸びる一辺が同じくらいの長さで全体がほぼ二等辺三角形型になっている例．②凹四角形型（全 15 件）：眼球を中心として鼻渦と鰓渦が直線状に無く，凹みのある四角形になっている例．③その他（全 10 件）：以上の例に属さない例．例えば Đình Bàn Môn（DN09）の例は，上記②とは逆に眼球が鼻渦と鰓渦よりも下がって出る凸四角形の例となっている．

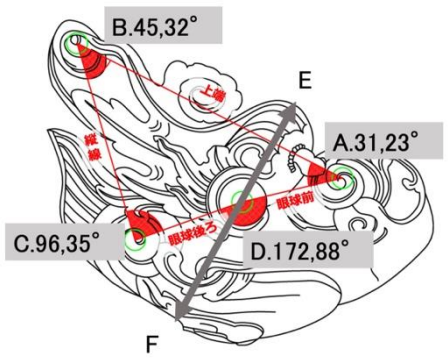


図 6_絵様構成の寸法分析

配置構成の特色を明らかにするために，図 6 における多角形の辺 AB を上端と称し，辺 BC を縦線，AD を眼球前，DC を眼球後ろと称し，また眼球の高さの分析のため，辺 EF を木鼻成，辺 ED を目の高さと称して分析した．それぞれの長さの比を求めると，縦線 BC/上端 AB の比は平均 0.58，平均前後 10%の例は 17 件であった．眼球前 AD/眼球後ろ CD の比は平均 1.02, 平均前後 10%の例は 9 件であった. 眼球の高さ ED/木鼻成 EF の比は平均 0.39, 平均前後 10%の例は 16 件であった．ディンに限れば，眼球高さ ED/木鼻成 EF の比は平均 0.36，伝統家屋に限れば，目の高さ ED /木鼻成 EF の比は平均 0.39 であった．

また図 6 の四角形 ABCD の各点において角度を計測した．鼻渦角 A の平均は 31.23°，平均前後 10%の例は 10 件．角角 B の平均は 45.32°，平均前後 10%の例は 16 件．鰓渦角 C の平均は 96.35°，平均前後 10%の例は 16 件．眼球下 D の平均は 172.88°，平均前後 10%の例は 24 件であった．

思いのほか寸法上の偏りは少なく，絵様各部の配置構成に一致の秩序があるかどうかは判然としない．また鼻渦角 A が 30°近傍であるのは，材料の上端に直交する基準線に腋尺（60°）を当てて引いた線であること，角角 B が 45°であることも同様の直交線が基準となっていることを予想させる．

6. ディンと伝統家屋の違い

輪郭など木鼻全体の形状については，ディンと伝統家屋の登り梁ケオ・クーで明確な違いがあるようには見られない．一方で絵様の構成にいくつかの違いがある．

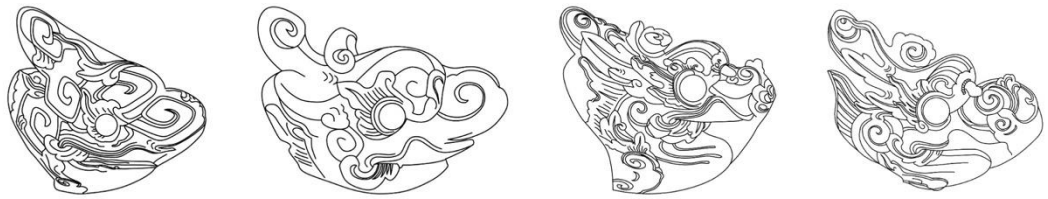
ディンの例では葉紋等の植物系のモチーフが少なく，鱗や髭のように神獣としての蛟の顔そのものの要素が強調されている．その他，渦模様が全体的に使われる例，顔でない例もあり，それぞれに個性が強い印象を受ける．一方で伝統家屋の例では葉紋を含む植物系のモチーフが多用されている．浅い線だけで描かれる例，植物の蔓のような二重線だけで表現されている例などもある．ディンよりも互いに似た雰囲気の顔が多い印象である．

具体的な細部で比較すると，例えば鼻渦は，全体では上り巻きが 23 件，下り巻きが 7 件であり，上り巻きが基本であるが，ディンの例に限れば，上り巻きが 8 件，下り巻きが 6 件となりほぼ同数，伝統家屋の例では上り巻きが 15 件，下り巻きが 1 件となり，上り巻きが主流．また口元の牙または舌の裂片を数えると，ディンでは牙・舌なしが 2 件，裂片 1 つが 7 件，2 つが 2 件，3 つが 3 件で，裂片 1 つが主流であるのに対し，伝統家屋では牙・舌なしが 1 件，裂片 1 つが 0 件，2 つが 6 件，3 つが 9 件となり，裂片 2 つか 3 つが主流である．またこの口元の牙または舌について，ディンは牙状に先が尖っている例が多い一方で，伝統家屋は牙のような表現は例が無く，舌先のような丸みのある表現になっているという違いがある．

全体にディンの例は個性的で動物的な強い印象，伝統家屋の例は植物的な柔らかい印象という印象の違いがあり，伝統家屋の方が比較的標準と呼べそうな共通点を見いだせる事例が多い．

7. 結論

以上の分析に基づき，ベトナム中部地域の伝統木造建築にみられる登り梁ケオ・クーの木鼻絵様の標準型を試みに記してみれば，輪郭は三角形，細部では眼球は正円，眼球の周りにある葉紋の裂片数は 5 裂，大きい裂片が角へ向かい，大きい裂片の上側より下側の方が裂片



DN09（Đình Bàn Môn） A13（Duong Van Manh） W04（Hoàng Phước） W08（Lê Trọng Phú）

図7_ベトナム中部の登り梁ケオ・クー木鼻絵様の典型例

数が多く，鼻渦は上り巻き，上唇の線は目元と鼻先の間で凸部が 1 つ，牙・舌の裂片数が 3 つ，鰓渦は上り巻きで口角の牙・舌と重なっており，鰭のような紋様が左上へ上がり，角は眉上の突起へと繋がり，角は渦文で上り巻きとなっていると言える．
その他，以下の結論を得た．

・眼球と鰓渦の位置は材料の上端に直交する基準線で決められているようだ
・ディンは絵様のモチーフが多様である
・伝統家屋の絵様は標準と呼べそうな共通項が見いだせる例が多い
・口元が牙である例はディン，舌状の丸みのある例は伝統家屋という違いがある

以上

謝辞

本研究は 2019 年度ものつくり大学教育力・研究力強化プロジェクト「二国間大学の学生協働による海外文化遺産調査プロジェクト」による成果の一部である．なお本稿の報告内容は間中啓佑「ベトナム中部地域の伝統木造建築の建築装飾　登り梁ケオ・クーの木鼻絵様の分類」（『2020 年度卒業研究・制作・設計梗概集』ものつくり大学，2021.2，pp.243-244）の成果に基づく．ここに記して謝意を表す．

参考文献

白井裕泰「フエ阮朝木造建築におけるドゥイ・ケオ絵様について」『日本建築学会計画系論文集』第 81 巻、2016 年 4 月